

令和4年度

事業活動報告書

社会福祉法人 グラン・ヘリオス会

令和4年度 事業報告

令和4年度 施設目標

「地域福祉の拠点となり思いやりの心で笑顔の暮らしに繋がります」

令和4年度は、前年同様に新型コロナウイルスの対応に追われる1年でありました。感染対応が増加する中で不安な気持ちを抱え生活する入居者・利用者様に対して、職員一人一人が思いやりの心で気持ちに寄り添ったケアをすることで、笑顔の多い暮らしに繋げることが出来ました。また、ワクチン接種や積極的な検査対応等の感染症に対する初動対応も確立し、感染者が発生しても落ち着いて業務を継続することが出来ました。引き続きご入居者様、ご利用者様が安心して快適な生活を提供できるよう取り組んで参ります。また、昨年度従来型におきましては25周年を迎えました。新しい時代のニーズも取り入れながら今後も質の高いサービスを提供して参ります。

【特養部門】

新型コロナウイルス感染症対策について

- ・新型コロナウイルスワクチン接種（入居者・職員）
4回目： 7/12 ～ 8/9 （6回）
5回目： 11/29 ～ 12/27 （10回）
- ・定期的なPCR・抗原検査の実施
- ・一斉メールシステム等による情報提供
- ・感染シミュレーションの実施 予防着の着脱訓練の実施
- ・マニュアルのバージョンアップと初動体制の確立、必要物品の備蓄等、次回に繋がる体制を強化
- ・簡易式陰圧装置2台購入（全額補助金）

新型コロナウイルス感染症発生について

- ・本館 3F 7/19～8/17 入居者 12名・SS利用者 1名・職員 10名 合計 23名
- ・本館 3F 8/20～9/8 入居者 12名・SS利用者 2名・職員 2名 合計 16名
- ・デイ、SS、本館 3F 12/12～12/22 DS・SS利用者 8名 入居者 3名 職員 3名 合計 14名
- ・新館 1F 1/9～1/19 入居者 5名 合計 5名

介護について

- ・事故防止対策、虐待防止対策の強化、身体拘束ゼロの実践
- ・排泄ケアの見直し
- ・腰痛対策 リフトを使用したケア
- ・24時間シート、ケアプランに沿った記録の充実
- ・カンファレンス、部署間での情報共有の連携強化

稼働率

- ・従来型 96.3% 50.1名 (前年度 93.9% 48.8名)
- ・ユニット型 96.6% 46.4名 (前年度 96.2% 46.2名)
- ・退所者数 本館 18名 新館 16名 合計 34名 (前年度 本館 25名、新館 10名 合計 35名)
退所者のうち 18名がターミナルケア、16名は急変等により医療機関へ入院等
- ・タイムラグ 本館 12日 (前年度 26日) 新館 11日 (前年度 27日)

施設のイベント

新型コロナウイルスの影響にて外出、ボランティア、大人数での集団イベントの中止
感染対策を行い少人数、フロア単位等でイベントを実施

- ・11/2 納涼祭の実施 (入居者・職員のみ)
- ・敬老会の実施 (各フロアにて)

【在宅部門】

- ・地域包括・居宅・デイサービス・ショートステイとの月 1 回定例の在宅部門会議の実施
- ・デイサービスの利用が 1 日平均 21.1名 61.2% (前年度 21.6名 稼働率 62.8%)
- ・ショートステイ利用が 1 日平均 6.3名 79.0% (前年度 7.6名 稼働率 95.4%)

【法人部門】

- ・理事会の開催 全 4 回 (5/31、10/21 (書面)、12/13、3/24)
- ・評議員会の開催 全 1 回 (6/21)
- ・物価高騰、エネルギー高騰による影響 (補助金取得)

委員会活動

- ・分野別専門的に議論し各部署会議にて検討
- ・各部署より検討意見を持ちより具体的な検討・実施

苑内設備更新

- ・新館ステーション床張替え、網戸の設置
- ・本館ガスバルク 1 基交換工事

【人材育成・人材確保】

- ・苑内での研修会を 21 回行い、延べ 189 名が参加
- ・第 15 回事例報告会では、9 部署が発表し 28 名参加
- ・埼玉福祉専門学校から介護福祉士科 3 名の実習生受入れ 1 名新卒採用
- ・11 月に特定技能外国人 1 名を採用 (ベトナム)
- ・職員 9 名 (20 代・30 代中心) を 1 年通して研修を実施 (将来のリーダー育成・チーム力向上等)

令和4年度 委員会・会議評価

| 委員会 | 委員長 | |
|-----------------------|-----|---|
| 広報委員会 | 宮永 | イベント・広報委員会のメンバーから、スマイルコンテストを実施したことで好評だったことを知り、計画して良かったと実感した。新しいことにチャレンジすることはいいことだと思うので、継続してほしい。 |
| イベント委員会 | 進藤 | 外出する事は殆どできなかったが、入居者様が楽しめる行事を皆で考え、実行することが出来た。コロナウイルス感染防止対策にて中止になってしまったり、個別開催になったりすることがあったが、1年無事に乗り越えることが出来た。来年度は少しずつ外出する機会を設けていきたい。 |
| 給食委員会 | 荻野 | 今年度もコロナウイルス発生により苑内での調理イベント制限を行ったため、調理をせずに楽しめるおやつイベントを実施した。また、昼食提供では井や混ぜご飯等喜ばれる献立の提供回数を増やし、食品の廃棄を減らすことが出来たため今後も継続し、より良い食事提供を行ってきたい。 |
| 衛生委員会 | 岡村直 | 健康診断について新型コロナの影響等により実施時期遅れてしまい年度末ギリギリでの実施となったが、ヘリオス会病院のご協力のもと感染対策を徹底したうえで入居者含め、予定していた回数を年度内に実施することが出来た。予防接種において、年1回実施インフルエンザワクチン接種の他、新型コロナワクチン接種も行政より通知を受け、病院と調整し、3回目～5回目と希望する入居者及び職員へ滞りなく接種を行うことができた。日本財団や埼玉県が提供する検査を有効活用し、早期発見に大いに役立てることができ、感染拡大防止に努めた。面会において1年を通してガラス越し面会やオンライン面会にて行い、感染時には中止・制限を行わざるを得なかったが、各フロア工夫を凝らし長寿新聞等によりご家族への情報発信に励んでいた。福祉用具について定期的に保有台数や必要台数の確認・共有を行い、職員の腰痛防止に寄与する床走行式リフトを取得し、必要な時に使用できる体制を整備した。感染予防具着脱訓練や嘔吐物処理勉強会を定期的実施し、実践を交えながら万に備えることが出来た。BCP計画の打合せを定期的実施したが策定まで至らず、次年度における最重要課題となる。 |
| 防災委員会 | 藤田 | 今年度も大きな災害もなく一年が過ぎたが、今後災害が起きることに対する準備ができるようにしていきたい。災害が起きた際の初動動作も慌てることなく行動できるよう、今年度は火災だけでなく地震の初動動作も訓練に取り入れ、地震時安全に身を守ることを確認が出来た。「災害は起こること」と意識し災害に備えられるように取り組んでいく。 |
| 感染症対策 医療的ケア 委員会 | 中田 | コロナ感染対策に追われた1年であった。川里苑での感染者が莫大にならなかったことに対する評価は、素晴らしいチームワークからなったことであると思う。他の感染症や褥瘡に対する勉強会がなかなかできなかったことが反省点である。来期はもう少し他の感染症に対しても勉強していきたい。 |
| 排泄委員会 | 金井 | 排泄オンラインを通して排泄ケアの知識向上することができた。フロア内での排泄介助について検討し、良いケアに繋げていきたい。その人らしい排泄ができるように心がけていきたい。 |
| リーダー会議 | 古市 | コロナ禍での開催を中止することもあり、ユニット、フロアでの課題解決(職員のコロナ禍での問題点等)が優先となり、リーダー会議での検討すべきことを、進めることができなかった。次年度は今回の反省点を活かして、リーダー会議のより良い介護と職員への指導的確にできるよう問題解決、改善に取り組みたい。 |
| 入所判定委員会 | 島田 | 今年度に入り新館、本館あわせて34名の退所があった。入所については36名となり年度替わりというが常に目まぐるしく入退所を繰り返している状況である。要介護2での特例要件でご入所された方が4名居た。待機者全員の状況把握は難しいが中位までについては定期的に状況把握が行えた。また、入所順位付けについては御家族からの聴取や資料、入所評価基準に基づき適切に行っていたと思う。 |
| 苦情処理委員会 | 島田 | 今年度は、特養の苦情については特にあがって来なかった。良いことでは有るが、感染予防対策による御家族との接点が希薄となり、表だって出てきていない可能性も考えられる。その分、相談員を中心に御家族への連絡、相談は気を使い行っていると思う。また面会時の職員対応については昨年度の苦情経験を活かし面会后に報告するなどし対応できている。 |
| 身体拘束廃止 委員会 | 川島 | 各フロア協力を頂き、ミトン等使用も短期間で解除でき、工夫についてもしていただくことができた。今後も「これぐらいなら」「少しなら」という状況があった時は、相談・報告できるようにしていきたい。 |
| 虐待防止・ 接遇委員会 | 野本和 | 今年度各フロア、気づきの報告(不適切な対応)利用者様からの訴え等報告し合い、それを各フロアで話し合い、良い対応が出来るように取り組むことが出来ていた。来年度にもつなげ、目標の達成につなげていきたいと思う。 |
| 研修・ 教育委員会 | 古市 | キャリアパスに応じた介護職員の研修は、オンラインにて参加することができていた。介護施設としての必須項目である研修は開催できたが、コロナ禍もあり参加人数は今年度平均11名であった。資料等の配布と各部署代表出席にて伝達を依頼している。感染防止の勉強会(予防対策嘔吐処理等)は実践に役立つことができ、事例報告会も15回継続でき多くの出席で好評であった。 |
| 事故防止対策 委員会 | 小野閑 | 防ぐべき事故(誤薬)を防ぐことができていない。内服薬提供時の業務手順書の作成なども行ってきたが結果に結びつけることができなかった。また本館ショートステイ利用者における誤薬事故においても今後「報・連・相」のあり方について課題が残る。利用者間トラブルや物損事故なども増えており、コロナ禍による影響も大きくあると考えられる。次年度に向けては、もっと具体的に良い結果になるようにしていきたい。 |
| 四半期会議 | 牧 | 各部署管理者・リーダー等が一堂に会し、年4回3か月ごとの各部署における実績や実施内容等の報告会を行った。荻野業務執行理事にもご出席・ご意見を頂きながら、前年度との比較の中で見いだされた課題や現状の分析を各部署における管理者レベルの職員が共通認識し、他部署の成功事例や悩み等を共有できた。今後も連携しながら法人の運営をより良くしていきたい。 |
| 経営会議 | 牧 | 毎月の営業月報により前月の稼働率等を振り返り、実績分析、各部門の課題やアピールポイント等の情報共有が経営状況等の理解・把握ができた。今後も健全な運営を法人全体で行ってきたい。 |

令和4年度 各部署の評価

| 部署名 | 目標 |
|---------|--|
| 本館2階 | 入居者様と会話しながら、思っていることや考えていることを聞、信頼関係を築けるように努力した。ほぼ達成できたと思う。 ①コロナ禍の中工夫しながら出来ていた。毎月フロアの飾りつけを交換し外出が出来ない中でも季節感を感じてもらえた。 ②情報が口頭で伝わっていることがあり、知っている人と知らない人が出てしまった。今後、伝達はきちんと申し送りノート等を活用するように徹底したい。 |
| 本館3階 | 今年度もコロナ感染などもあり、思うような行事が出来ていなかったが、その時その時で少しでも楽しんでもらえるようフロア内で話し合い取り組むことができた。フロアのアルバムも作成し、長寿新聞なども継続していくことができた。誕生会も計画し行うことができ、よかったと思う。 |
| 新館1階 | 今年度は8月より入居者の入退所・入退院が多くなった。担当職員を中心に利用者と共に寄り添い、尊重することができた。日々の変化に多職種とも連携を密にとることで、良い支援に繋がれたと感じた。 コロナ禍で行事を再検討し楽しみのある行事を実践・提供することができた。 1月はクラスター発生となってしまったが、感染が拡大することなく対応することができ良かった。 |
| 新館2階 | 今年度もコロナ禍という状況の中、目標に向けた支援はほとんど達成することは出来なかったと思う。 それどころかフロア内でコロナも発症してしまった事で入居者の方々には様々なストレスを感じる日常だったと思う。 また入居者様のレベル低下や着取りなど変化も著しく、入居者様一人一人の介護の手間も増え、行事なども中々できていない状況の年度だったが、当たり前のことが当たり前にでき、入居者様の立場で考えられ対応できるようスタッフ同士話し合うことが出来支援につながった。次年度は暮らしの中に取り込める行事なども考えていきたい。 |
| 新館3階 | コロナで疲れた入居者の心と身体に寄り添った介護をということで、入居者の声に耳を傾け心に寄り添うこと、全員が統一した介護を行うことで「あの人はやってくれない」というストレスをなくすよう心掛けてきた。全員が意識し、入居者と話すように心掛けてくれた。 入居者と話をする姿は増えたように感じた。又職員ともコミュニケーションを取るよう心がけたので、話しやすい環境を作ることが出来たと思う。 職員からいろいろな意見が出るようになった。 |
| 新館4階 | コロナ禍で行事が中止になり、室内でできるもので実施していたが困難だった。 来年度は調理系の行事が出来れば実施したい。また入居者様が楽しく過ごせるように計画を立てたい。 |
| デイサービス | 今年度は、12月にコロナ感染症発生の為、1週間の一時休業となった。数名の感染者が発症したが、1週間で再開できた。 行事に関しては、利用者のやりたい事、やってみたい事を聞き出し一部の利用者の方は個々にデイを利用してやりたい事を実践でき楽しみを持って過ごされていた。利用者数は26人以上を目標にしていたが大幅にダウンしてしまった。 今後は在宅生活が長く続けられるようなサービス提供と身体の状態観察と体調不良時の早期発見・対応をしていきたい。 |
| 事務 | 職員間の声掛けを部署全体で意識することで前年よりコミュニケーション能力も向上できた。新型コロナに感染してしまった職員もいたが、チームワークで乗り越えることが出来た。感染に伴う休暇で休みが必要な場合の課題も見えたところもあり、来期は対策を考えていきたい。 社会福祉法人の帳票書類の電子保存化など広範囲に渡るペーパーレス化が始まり順次対応していけるよう情報収集を行っていきたい。 |
| 看護 | コロナクラスター発生の対応に追われた1年であった。しかし実際に対応している中で手際もよくなり対応もしっかりとできるようになった。 お陰様で重症化もなく終了できたことには安堵であった。 |
| 栄養 | 今年度もコロナウイルス発生により苑内での調理イベント制限を行ったため、調理をせずに楽しめるおやつイベントを実施した。 また、昼食提供では丼や混ぜご飯等喜ばれる献立の提供回数を増やし、食品の廃棄を減らすことが出来たため今後も継続し、より良い食事提供を行ってきたい。 |
| 生活相談員 | 平均稼働率 本館96.2% 新館96.6% 今年度の補正目標であった95%はクリア出来た。タイムラグ平均として本館12.5日 新館11日となり、目標である10日以内には届かなかった。 年々、申込者数は減少していて早く行動に移した場合でも他の施設を選ばれてしまうケースもあった。今後は、ますます稼働率をキープすることが難しくなるため、利用者に対するニーズに応えられるような戦略を考えて行かないといけない。 |
| 居宅 | 新型コロナウイルス感染拡大予防の中でも利用者数の確保・増数が出来た。また癌末期支援の関わりも多く医療従事者など多職種共同で働かせて頂き、いろいろ勉強させて頂くことが出来た一年であった。どんなケースも断らないを基本とし地域包括支援センターと一緒に訪問、状況に応じて根気強く面談・提案を行い、利用者様・介護者様より笑顔を引き出すことが出来たときはこの仕事について心から良かった思えた。今後もチームワークを大切に更なる発展・信頼を得られるよう頑張っていく。 |
| 介護支援専門員 | ①カンファレンス前にモニタリングを活用し、身体状況の把握や日頃のケア方法を確認する等行っていたが、アセスメントの確認が追い付いていなかったため、思うように活用できずにいた。次年度の目標としても同様に挙げているため、他職種とも意識しながら確認していく。 ②今年度もコロナの関係でクラスターになってしまうこともありご家族様とお話する機会も減っている。 状態変化や看取り期の入居者様については、ご家族と連絡を取り状況報告や情報共有できていたが、大きな状態変化がない入居者の意向確認が行えていないこともあったため、今後更に意識して積極的に連絡を取り、意向確認を行っていく。 ③個々の入居者様の状態を関係職員と情報共有し、状態に合ったケアが提供できるようプラン内容も意識している。 又、介護度と入居者様の状況に相違がある際は、ご家族に区分変更を提案し、今年度6件の区分変更を行った。 |
| 地域包括 | 1.コロナ感染者の訪問もあり、職員の感染を心配した事例があったが、利用者からの感染はなかった。 新型コロナは収束に向かっているが、今後も感染症対策をしながら支援にあたる必要がある。 2.認知症に対する横断支援を継続して行えた。 3.地域ケア会議は、コロナ蔓延のために中止した日があるが、委託予定回数は実施できた。ネットワーク会議は延期となったが2回笠原公民館で対面開催を行うことができ、ネットワークの構築と、関係機関との連携を図ることが出来た。 |